

2016年9月20日

各位

低分子 PPI 阻害薬の探索に関するニューヨーク医科大学との
研究パートナーシップ契約締結のお知らせ

ニューヨーク医科大学（以下、NYMC）とインタープロテイン株式会社（代表取締役社長：細田 雅人、本社：大阪市北区、以下、インタープロテイン）は、研究パートナーシップ契約を締結致しましたので、本日、お知らせいたします。このパートナーシップは C2 ドメイン*に作用する治療薬の研究開発に焦点を合わせたものです。その治療薬は PPI**阻害薬に分類され、（転移を含む）がん、線維症および肺高血圧症など、多くの疾患の治療に寄与することが期待されます。

本契約において、NYMC とインタープロテインは、NYMC の C2 ドメイン生物学に関する専門性の高い先進的研究力と低分子 PPI 阻害薬探索に用いるインタープロテインの基盤技術である INTENDD®とを合わせ、C2 ドメインが関与する相互作用を制御する低分子の同定に共同で取り組みます。

NYMC とインタープロテインは、C2 ドメインに作用する治療薬に関連する知的財産権を第三者（製薬系企業など）にライセンスすることを目指します。

***C2 ドメイン：**

蛋白質を構成する部分構造の一つであり、例えば、ユビキチン-プロテアソーム系におけるユビキチン・リガーゼ（E3）の基質認識などに重要な役割を果たしていると言われていました。

****PPI：**

蛋白質間相互作用（protein-protein interaction、PPI）とは、二つ以上の蛋白質分子が結合することによって起こる生物学的反応の総称です。例えば、サイトカインがサイトカイン受容体に結合し、そのサイトカイン受容体から何らかの細胞内シグナルが伝達されるような反応を指します。このように、蛋白質間相互作用は多くの疾患において重要な役割を果たしています。

インタープロテインについて：

インタープロテインは、INTENDD®（INTerprotein's Engine for New Drug Design）およびヘリックス・ループ・ヘリックス・ペプチド（HLHP）という二つの基盤技術を用い、PPI を標的とした探索的創薬研究にフォーカスしています。INTENDD®は、蛋白質立体構造に基づいた創薬（Structure-Based Drug Discovery、SBDD）のための戦略であり、立体分子模型も活用した低分子結合部位の同定および SBSG®（Structure-Based Scaffold Generation；個々の結合部位に対してユニークなコンピュータ・アルゴリズムを構築する手法）による *in silico* スクリーニングからなります。HLHP は、立体構造規制ペプチドの一種であり、ラショナル・デザインおよびフェージ提示ペプチド・ライブラリーからのランダム・スクリーニングという二つのアプローチによって、効率的な結合ペプチド同定が可能です。

本件に対するお問い合わせ：

New York Medical College
Office of Research Administration
Charles B. Hathaway, Ph.D.
TEL: +01-914-594-2600
E-mail: charles_hathaway@nymc.edu

インタープロテイン株式会社
事業開発本部 小松 弘嗣
電話： 042-770-9477
FAX： 042-770-9477
E-mail： info@interprotein.com